

# 安全データシート

Japan

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 **SFM4MegaVir™, 50L**

コード番号 **SH30587.03**

製品タイプ 粉末。

作成日 1/11/2016

発行日/改訂版の日付 2019年8月1日

前作成日 2018年6月22日

推奨用途及び使用上の制限

該当せず。

供給元 / 製造業者

Cytiva Austria  
Kremslstr. 5  
4061 Pasching  
AUSTRIA  
Tel. (+43) 7229 64865  
Fax (+43) 7229 64866

HyClone Laboratories  
925 West 1800 South  
Logan, Utah 84321  
Phone: (435) 792-8000

グローバルライフサイエンステクノロジー株式会社  
新宿区百人町三丁目25番1号  
サンケンビルヂング  
東京都  
169-0073  
日本  
+81-(0)3-5331-9336

Cytiva Singapore  
1 Maritime Square #13-01  
Harbourfront Centre  
Singapore 099253

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

眼刺激性 - 区分2A  
水生環境有害性(急性) - 区分3  
水生環境有害性(長期間) - 区分3  
未知の急性経口毒性を有する原料を含有する混合物の割合: 55.4%  
未知の急性経皮毒性を有する原料を含有する混合物の割合: 80.2%  
未知の急性吸入毒性を有する原料を含有する混合物の割合: 80.2%  
水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ: 35.6%

GHS ラベル要素

危険有害性の絵文字



注意喚起語

警告

危険有害性情報

強い眼刺激。  
長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

概要

安全対策

保護眼鏡または保護面を着用すること。環境への放出を避けること。取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合: 医師の手当てを受けること。

保管

非該当

廃棄	内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。
他の危険有害性	分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性あり。

3. 組成および成分情報

化学物質／混合物	混合物			
化学物質を特定する他の方法	非該当			
CAS 番号／他の特定名				
CAS 番号	非該当			
ENCS 番号	非該当			
ISHL 番号	非該当			
成分名	%	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	官報公示整理番号 (労安法)
塩化カリウム	<3	7447-40-7	1-228	(1)-228
塩化カルシウム	<3	10043-52-4	1-176	非該当
亜セレン酸ナトリウム	<0.0004	10102-18-8	1-507	非該当

本製品の補足的な成分の中には、現在の知識の範囲および該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
飲み込んだ場合	水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
皮膚に付着した場合	多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
眼に入った場合	すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。

最も重要な急性および遅発性の症状/影響

起こりうる急性毒性	
眼に入った場合	強い眼刺激。
吸入した場合	制定法上の、あるいは勧告されている暴露限界を超えた濃度の空気浮遊物質に曝露すると、鼻、のど及び肺に炎症を引き起こす原因となる可能性がある。
皮膚に付着した場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。
短期暴露	
潜在的な遅発性作用	非該当
過剰暴露の徴候/症状	
眼に入った場合	有害症状には以下の症状が含まれる： 痛み及び刺激 流涙 発赤
吸入した場合	有害症状には以下の症状が含まれる： 気道の刺激 咳
皮膚に付着した場合	特にデータは無い。
飲み込んだ場合	特にデータは無い。

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

医師に対する特別な注意事項	症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。
特定の治療法	特定の治療法はない。
応急措置をする者の保護	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。

有害性情報を参照(セクション11)

5. 火災時の措置

消火剤

適切	粉末化学消火剤を使用すること。
使ってはならない消火剤	粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性がある高圧媒体を避けること。
火災時の措置に関する特有の危険有害性	分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性あり。 本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。 本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
有害な熱分解生成物	分解生成物には以下の物質が含まれることがある： 二酸化炭素 一酸化炭素 硫黄酸化物類 ハロゲン化合物 金属酸化物
消火を行う者に対する注意事項	火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。 ウォータースプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。
消火を行う者の特殊保護具	消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

緊急時要員以外の人員用	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 周辺地域の人々を避難させる。 関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。 漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。 全ての発火源を遮断する。 危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。 粉塵の吸入を避ける。 十分な換気を行う。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 適切な個人保護装置を着用する。
緊急時の責任者用	流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。
環境に対する注意事項	漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。 製品が環境汚染（排水、水路、土壌または大気）を起したときは、関係する行政当局に報告する。 水質汚染物質である。 大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機械

少量流出	漏出区域から容器を移動する。 火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。 粉塵の発生を避けること。 HEPAフィルター付き真空吸引機を使用すれば粉塵の飛散を減少させることができる。 漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
大量流出	漏出区域から容器を移動する。 火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。 放出現場には風上から近づくこと。 下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。 粉塵の発生を避けること。 乾燥状態で掃かないこと。 粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。 粉塵状態になるのを避け、風による散乱を防止する。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。 注意：接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

保護措置	適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。 摂取してはならない。 眼、皮膚および衣類に接触しないようにする。 粉塵の吸入を避ける。 環境への放出を避けること。 取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火災)を避ける。 粉塵の貯留を防止する。 換気が十分な場所でのみ使用する。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。 電気機器および照明器具は、熱せられた表面、火花、その他の引火源に粉塵が接触しないよう、適切な基準に合わせて防護されていなければならない。 静電気防止対策を講じる。 火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。 容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。 容器を再利用してはならない。
一般的な職業衛生に関する助言	本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での 飲食および喫煙は厳禁。 作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。 飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。 同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。
安全に保管するための注意事項	以下の温度範囲で保管する： 2 から 8°C (35.6 から 46.4°F)。 現地の法規制に従って保管する。 隔離され認定された場所に貯蔵する。 元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。 あらゆる発火源を除去する。 酸化性物質に近づけない。 使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。 いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。 ラベルのない容器に保管してはならない。 環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。 非相溶性材料については取扱いまたは使用の前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

曝露限界

成分名

亜セレン酸ナトリウム

暴露限界値

日本産業衛生学会（日本、5/2017）。  
OEL-M: 0.1 mg/m³、(Seとして) 8 時間。

適切な技術的管理	換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。
環境暴露管理	換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。
個人の保護措置	
衛生対策	化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙、およびトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
保護眼鏡/保護面	リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない：耐化学物質飛沫よけゴーグル。作業条件により高濃度の粉塵が発生する場合は、粉塵用ゴーグルを着用する。
皮膚の保護	
手の保護具	リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不透水性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。
身体保護具	作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
その他の皮膚保護具	この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。
呼吸用保護具	危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態	固体。[粉末。]
色	非該当
臭い	非該当
臭いのしきい	非該当
pH	非該当
融点	非該当
沸点	非該当
引火点	非該当
燃焼点	非該当
蒸発速度	非該当
燃焼性(固体, 気体)	非該当
爆発(燃焼)限界の上限および下限	非該当

蒸気圧	非該当
蒸気密度	非該当
比重	非該当
溶解度	非該当
水への溶解度	非該当
n-オクタノール／水分配係数	非該当
自然発火温度	非該当
SADT	非該当
分解温度	非該当
粘度	非該当
流出時間(ISO 2431)	非該当
燃焼時間	非該当
燃焼速度	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
化学的安定性	製品は安定である。
危険有害反応可能性	通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて（火花または火炎）を避ける。 静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。粉塵の貯留を防止する。
混触危険物質	次の物質と反応性あるいは危険配合性： 酸化性物質
危険有害な分解生成物	通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

毒物学的作用に関する情報

急性毒性						
製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間		
塩化カリウム	LD50 経口	ラット - オス	2600 mg/kg	-		
塩化カルシウム	LD50 経口	ラット	1 g/kg	-		
亜セレン酸ナトリウム	LD50 経口	ラット	7 mg/kg	-		
刺激性/腐食性						
製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察	
非該当						
感作						
製品 / 成分の名称	暴露経路	種類	結果			
非該当						
変異原性						
製品 / 成分の名称	テスト	試験	結果			
非該当						
発がん性						
製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間		
非該当						
生殖毒性						
製品 / 成分の名称	妊娠毒性	妊性	発生毒性	種類	投与量	暴露時間
非該当						
催奇形性						
製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間		
非該当						
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)						
名称	カテゴリ		暴露経路	標的臓器		
塩化カルシウム	区分3		非該当	気道刺激性		
亜セレン酸ナトリウム	区分1		未確定	中枢神経系 (CNS)、 消化器管、心臓、腎臓 肝臓 および 呼吸器系		
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)						
名称	カテゴリ		暴露経路	標的臓器		
塩化カルシウム	区分2		未確定	血液系		
亜セレン酸ナトリウム	区分1		未確定	腎臓血管系、 中枢神経系 (CNS)、 毛髪、腎臓、肝臓、爪、 生殖器系、皮膚 および 歯		
呼吸に対する危険有害性						
非該当						
可能性のある暴露経路についての情報						
予想される侵入経路: 経口、経皮、吸入した場合。						
起こりうる急性毒性						
吸入した場合	制定法上の、あるいは勧告されている暴露限界を超えた濃度の空気浮遊物質に曝露すると、鼻、のど及び肺に炎症を引き起こす原因となることがある。					
飲み込んだ場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。					
皮膚に付着した場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。					
眼に入った場合	強い眼刺激。					
物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状						

眼に入った場合	有害症状には以下の症状が含まれる： 痛み及び刺激 流涙 発赤
吸入した場合	有害症状には以下の症状が含まれる： 気道の刺激 咳
皮膚に付着した場合	特にデータは無い。
飲み込んだ場合	特にデータは無い。

遅発性および即時性の影響ならびに短期および長期の暴露による慢性的な影響

短期暴露	
潜在的な即時性作用	非該当
潜在的な遅発性作用	非該当
長期暴露	
潜在的な即時性作用	非該当
潜在的な遅発性作用	非該当

健康への慢性効果の可能性

非該当	
概要	粉塵を繰り返しあるいは長期間吸入すると、慢性の呼吸器炎を引き起こすことがある。
発がん性	重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性	重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇形性	重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。

毒性の数値化

急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
SFM4MegaVir™	6830.9	16884	N/A	168.8	N/A
塩化カリウム	2600	N/A	N/A	N/A	N/A
塩化カルシウム	1000	N/A	N/A	N/A	N/A
亜セレン酸ナトリウム	7	N/A	N/A	N/A	N/A
その他の情報	非該当				

12. 環境影響情報

毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
塩化カリウム	急性 EC50 1337000 µg/l 真水 急性 EC50 9.24 g/L 真水 急性 EC50 141.46 mg/l 真水 急性 LC50 9.68 mg/l 真水 急性 LC50 880 mg/l 真水	藻類 - Navicula seminulum 藻類 - Desmodesmus subspicatus ミジンコ類 - Daphnia magna 甲殻類 - Pseudosida ramosa - 新生児 魚類 - Pimephales promelas	96 時間 72 時間 48 時間 48 時間 96 時間
塩化カルシウム	急性 EC50 3130000 µg/l 真水 急性 EC50 52000 µg/l 真水 急性 LC50 270 mg/l 海水 急性 LC50 2110 mg/l 真水	藻類 - Navicula seminulum ミジンコ類 - Daphnia magna 甲殻類 - Americamysis bahia 魚類 - Pimephales promelas	96 時間 48 時間 48 時間 96 時間
亜セレン酸ナトリウム	急性 EC50 2900 µg/l 真水 急性 EC50 80 µg/l 真水  急性 LC50 350 µg/l 真水 急性 LC50 0.006 mg/l 真水 急性 LC50 0.29 ppm 海水  慢性 NOEC 1 mg/l 海水 慢性 NOEC 0.24 mg/l 真水 慢性 NOEC 3.936 ng/ml 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata 藻類 - Scenedesmus acutus var. acutus 甲殻類 - Ceriodaphnia affinis ミジンコ類 - Daphnia pulicaria 魚類 - Zosterisessor ophiocephalus - 成体 藻類 - Dunaliella salina - 指数増殖期 ミジンコ類 - Daphnia magna 魚類 - Oryzias latipes - 幼若体 (ひな鳥、孵化したての幼魚、離乳子畜)	96 時間 3 日 48 時間 48 時間 96 時間 4 日 21 日 210 日

残留性・分解性

非該当	
-----	--

生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogPow	BCF	可能性
亜セレン酸ナトリウム	-	5.8	低

土壌中の移動性

土壌/水分分配係数(K <sub>oc</sub> )	非該当
移動性	非該当
オゾン層への有害性	非該当
その他の悪影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。

13。 廃棄上の注意

廃棄方法

廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14。 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	非該当	Not available.	Not available.
品名(国連輸送名)	非該当	Not available.	Not available.
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	非該当	Not available.	Not available.
容器等級	—	—	—
環境有害性	該当せず。	No.	No.
追加情報	—	—	—
使用者のための特別な予防措置	使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。		
MARPOL条約の附属書IIおよびIBCコードによるばら積み運搬	非該当		

15。 適用法令

消防法

カテゴリ	物質名／種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第一類	以下を含む物質: 硝酸塩類	非該当	非該当	非該当
第四類	以下を含む物質: 第二石油類(水溶性) 以下を含む物質: 第三石油類	III III	火気厳禁 火気厳禁	2000 L 2000 L
消防法 - 妨害物質	非該当			

船舶安全法

危険物の海上運送規制に関する通達

非該当

容器等級

非該当

労働安全衛生法

特定化学物質の用途

非該当

ラベルに関する規定

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

非該当

発がん性物質

非該当

変異原性物質

非該当

腐食性液体

非該当

労働安全衛生法: 別表第一	非該当
鉛中毒予防規則	非該当
四アルキル鉛中毒予防	非該当

製造の許可を受けるべき有害物 非該当

製造等が禁止される有害物等 非該当

危険物 非該当

有機溶剤中毒予防規則 非該当

#### 化審法

硫酸ニッケル(II) <0.000007 重要性評価 148

#### 毒物及び劇物取締法

成分名	%	状況	政令番号
セレン化合物	<0.0004	毒物	18

#### 化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

非該当

日本産業衛生学会 発がん性物質 非該当

海洋汚染および海洋災害防止法 非該当

道路法 非該当

特別管理産業廃棄物リスト 非該当

#### 国際規格

##### 化学兵器禁止条約リストスケジュールⅠ、Ⅱ、Ⅲの化学物質

非該当。

##### モントリオール議定書(付属文書A、B、C、E)

非該当。

##### 残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

非該当。

##### 事前通報承認制度(PIC)に関するロッテルダム条約

非該当。

##### POPおよび重金属に関するUNECEオルフス(Aarhus)議定書

非該当。

#### 国際リスト

##### 国別目録

日本	日本インベントリー(ENCS)(既存及び新規化学物質): 未確定。 日本インベントリー(ISHL): 未確定。
ヨーロッパ	未確定。
米国	未確定。
カナダインベントリー	未確定。
中国	未確定。

## 16. その他の情報

#### 履歴

印刷日	4/23/2020
発行日/改訂版の日付	2019年8月1日
前作成日	2018年6月22日
バージョン	0.01




sds\_author@cytiva.com

ATE = 急性毒性推定値  
BCF = 生物濃縮係数  
GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム  
IATA = 国際航空輸送協会  
IBC = 中型運搬容器  
IMDG = 国際海上危険物  
LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数  
MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。  
("Marpol" = 海洋汚染)  
N/A = データなし  
UN= 国際連合

分類を行うために使用する手順

	分類	正当化
眼刺激性 - 区分2A		算出方法
水生環境有害性(急性) - 区分3		算出方法
水生環境有害性(長期間) - 区分3		算出方法
参照	非該当	

 前バージョンから変更された情報

注意事項

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。

